

Ⅱ．研修別報告

5．専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会

専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会

キーワード： 高度実践看護師 専門看護師 役割発揮 役割開発 専門看護師の継続教育

I はじめに

本学では平成 21 年度より、大学院に専門看護師コースを設け、慢性看護、小児看護、がん看護の 3 分野の専門看護師を養成してきた。専門看護師は、当該専門領域において、卓越した看護の実践、看護職に対する教育、ケア提供者へのコンサルテーション、関係者の調整、実践の場での研究、倫理的調整などの諸活動が遂行できる実践能力をもち、看護現場においてさらなる活動の発展が期待されている。本学では、平成 30 年度末までに 15 名の専門看護師が認定され、県内をはじめとする医療機関に送り出してきた（資格審査に合格した者）。内訳は、慢性看護 6 名、小児看護 3 名、がん看護 6 名である。

岐阜県内では、30 名の専門看護師が活躍している（日本看護協会 HP より）。日本看護協会では、専門看護師のレベル保持のため認定更新制を施行している。日本看護協会の認定を受けた専門看護師は、認定を受けてから 5 年ごとに更新審査を受けなければならない、となっている。常に、専門看護師として、看護実践の質向上の努力をし、自己の看護実践能力のレベルを維持向上させていかなければならない。更新審査においては、「研修」と「研究」の両分野での一定数の活動実績が必要とされる。「研修」では「専門看護分野に関する最新の情報・知識・技術の修得のための研修プログラムへの参加」「専門看護師事例検討会等の専門看護師および専門看護師教育課程修了者を対象とした研修プログラムへの参加」が推奨されており、資格更新の条件として、研修を積むことが必須である。

そこで、平成 28 年度に県内で活動する専門看護師を対象に、研修に関するニーズ調査と活動状況についてのグループインタビューを実施し、その調査結果を基に平成 29 年度は専門看護師の役割である「コンサルテーション」をテーマに外部講師による講演とグループワークを実施した。当日は、18 名の専門看護師が参加し（全参加者 45 名）、事後のアンケートではコンサルテーションについて改めて学びを深めることができたなどの感想を得ている。県内で活動する専門看護師を対象とした研修プログラムを継続して実施する意義は大きいことから、平成 30 年度は、29 年度に引き続き、本学修了者及び岐阜県で活動する専門看護師を対象とした研修会を開催し、資格取得後の看護実践の質向上とスキルアップを図ることを目的として事業を展開した。

II. 担当者

奥村美奈子、布施恵子（成熟期看護学領域）
藤澤まこと、黒江ゆり子（地域基礎看護学領域）
服部律子（育成期看護学領域）
橋本麻由里（機能看護学領域）

III. 実施方法

1. 研修会開催に向けた準備

平成 30 年 5 月 16 日に学内担当者による会議を開催した。その中で、県内で活動する専門看護師の活動現状を共有し、組織の中で専門看護師として役割発揮していくことに課題があることが確認された。そこで専門看護師の役割発揮を研修会テーマとして、慢性疾患看護専門看護としての活動が長く、現在は草津総合病院の看護管理者である伊波早苗氏（慢性疾患看護専門看護師）を講師として招聘した。

参加者募集については、県内で専門看護師が活動する 14 施設の看護責任者及び専門看護師 30 名へ案内状を送付した。さらに、研修会の案内を大学ホームページに掲載するとともに、図書館等にチラシを設置し広報を図った。また、専門看護師以外でも研修会に関心がある看護職の参加や講演のみの参加も可能とした。

2. 「専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会」の開催

1) 目的

県内の専門看護師を対象に、実践現場で必要とされる共通のテーマについて専門家を招き、研修会を行い、学習の機会とする。また講義後にグループワークを行い、日ごろの活動と専門看護師の役割についてディスカッションを行い、情報交換とともに交流を深め、今後の活動へ発展できることを目指し学びを深める機会とする。

2) 実施概要

- (1)開催日時：平成 30 年 10 月 14 日（日）13：00～16：10
- (2)場所：岐阜県立看護大学 講義室 104、103

(3) 研修会テーマ

「CNS の 6 つの役割発揮と看護の質改善のコツー組織との Win-Win を目指してー」

講師：伊波早苗氏

(慢性疾患看護専門看護師、社会医療法人誠光会 草津総合病院 看護局部長代行)

(4) 研修会スケジュールの概要

13 時 00 分～ 開会あいさつ 講師紹介

13 時 10 分～14 時 40 分 講演

CNS の 6 つの役割発揮と看護の質改善のコツー組織との Win-Win を目指してー (90 分)

14 時 50 分～15 時 50 分 グループ討議

専門看護師の役割発揮における組織への働きかけの悩みや対策について (60 分)

15 時 50 分～16 時 10 分 グループ討議の共有と講師による講評 (20 分)

16 時 10 分～ 閉会あいさつ

3. 県内で活動する専門看護師を対象とした事例検討会企画会議の開催

県内で活動する専門看護師を対象とした事例検討会企画会議を開催し、3名の専門看護師とともに事例検討会の実施計画について検討した。

IV. 研修会の実施

1. 実施内容

1) 参加者の状況

当日の参加者は、専門看護師 10 名 (4 分野) と認定看護師 3 名 (2 分野) 及び、専門看護師コース修了者 2 名、大学院生 1 名、教員 4 名との合計 20 名で、うち 5 名は講義のみ、15 名が講演とグループ討議に参加した。

表 1 参加者内訳

専門看護師	急性・重症患者看護	2 名
	がん看護	5 名
	慢性疾患看護	2 名
	小児看護	1 名
認定看護師	緩和ケア	2 名
	在宅医療、訪問看護	1 名
専門看護師コース修了者		2 名
大学院生 (専門看護師コース)		1 名
その他(教員)		4 名
計		20 名

2) 講義概要

「CNS の 6 つの役割発揮と看護の質改善のコツー組織との Win-Win を目指してー」をテーマに、伊波早苗氏による講演を実施した。講師より自身の活動経過が紹介された後に、専門看護師の役割発達、6 つの役割発揮、専門看護師の実践モデル、病棟単位の勉強会などを実施する上での組織分析、事例研究の実施、地域における役割拡大と地域ニーズへの対応などを小テーマに、詳細な説明がなされた。

専門看護師の役割発達については、講師の専門看護師としての活動経過を示しながら、専門看護師としての役割発達過程について説明された。また、専門看護師の 6 つの役割発揮について、専門看護師の実践モデルとして、事例を積み重ねながらモデルを作成していく必要性を語られ、自身の療養指導外来での看護実践プロセスをもとに具体的に説明された。病棟単位での勉強会を実施するための組織分析の必要性や、専門看護師としての人材育成の全体像が示された。

事例研究の実施について、自身が取り組んだ糖尿病療養指導に関する事例研究の例を示し、研究を進めるうえで、目指した看護・心がけた看護は何か、研究しようとする事象に含まれる概念を明らかにするために必要なことなど、事例研究の必要性、進め方について説明された。

また、最後に「組織との win-win を目指して」と題して、専門看護師の役割概念と必要な能力の説明とともに、<変革の基礎は人材を巻き込むこと>をはじめ 7 つのポイントの解説と APN として態度や看護師に受け入れられることの重要性について説明があった。

3) グループワークの討議内容

3 グループに分かれて、専門看護師の役割発揮における組織への働きかけの悩みや対策についてグループ討議を行った。討議は、参加者の司会進行により進められ、日々の活動の実際や悩んでいることについて共有し、活発な意見交換がなされた。以下に各グループの討議内容の概要を示す。

(1) 1グループ

メンバー：専門看護師4名、認定看護師1名

・診療所勤務の看護専門看護師は、全国的に少なく、専門性を十分発揮できず困っている現状もある。組織・地域のニーズを把握して、実践事例や組織・地域の人に状況を伝えていく必要がある。また、自分の役割を発揮し発信していく必要がある。地域とつながったあとの、フィードバック・連携ができるよう取り組んでいる。

・集中治療の領域では、全人的視点でアウトカム評価したいが、ゴールの内容、誰とどのように検討するとよいか悩む。協会のフォームを現場で活用しはじめたところなので、データを積み重ねて、出てきたものを検討し、研究としてすすめていけるとよい。

・周囲の理解を得るだけでなく、記録に残す。かかわった患者のカルテに組織内にわかりやすくマークを付けて自分たちが関わっていることを認識してもらっている。お互いがどの分野であってもタイムリーに情報共有できるように、読んだらその時の様子がわかるような記録をしていくことが大事である。

・自分は何をする人か、自分の役割として活動する。

・成功事例を通して、理解・必要性の認識を広げるとよい。

(2) 2グループ

メンバー：専門看護師2名、認定看護師2名（今年度CNS受験予定者1名、院生1名）

・共通して困っていることは、人員不足の中で専門看護師として活動することに困難感がある。自分たちの役割は何か、今の立ち位置でできることがないかを考える中で、講義を通して気づくことができた。

・病棟から、外に出ることが必要だが経験がなく自信がない。人員不足の中で部署以外に出ていくことについては、他のスタッフに申し訳ない気持ちが先行する。活動したい思いと、スタッフへの申し訳なさがジレンマになっている。

・講義を通して、気づいたことは、今の自分の立ち位置でできることで、まず患者への看護を一つ一つ丁寧に行うこと、そこでスタッフがどのように変化したか役割意識をもって記録に残すことが大事だとわかった。

・管理者が専門看護師の役割を理解しているのかについて、認定看護師、特定行為のできる看護師などが出てきているので、専門看護師の専門性をどう生かしていくか、自分のアピール不足もあるが、うまく活用されていない現状がある。自分たちの実践を管理者に報告し、実践を示していくことをやっていく必要があるとわかった。

・病院の看護職も専門看護師に何ができるのかが、まだまだわからないという意見もある。3か月に1回活動報告会を開く、情報誌を使って活動をアピールする取り組みをしているので、自分たちが行っていることを、病院内でアピールすることが大事であり、人員不足でもできることなので取り組みたい。

(3) 3グループ

メンバー：専門看護師5名

・外来専従であるため活動はしやすいが、認定看護師との関係、調整が難しい。

・緩和チームとして動いているので、相談・依頼もあり活動しやすい。地域のニーズに合った活動ができていると感じるが、病院としてのニーズは地域のニーズと少し食い違うところがある。

・スタッフ不足のため、病院内でうまく活動できていない。

・スタッフとして動いており当直もある。専門看護師の資格をとったときは「私が何とかしなくちゃ」という思いが強かった。師長に専門看護師について理解を得るのに3年かかった。1年目は言われるままに活動し、信頼関係の確立を目指した。その後は同じ目標に向かっていけるようになった。

・部署を超えた役割開発が難しいが、自分で役割開発していく必要がある。

・病院で専門看護師が1名という状況であり、認定看護師との調整が悩みである。

・管理者を兼務しているため、ポジションパワーに気を付けている。管理者がいかに関与するかが大事である。スタッフは、専門看護師に対し何ができる人なのかと引くところがある。新しい専門看護師が来る前に、事前に管理者としても医師との調整、スタッフとの調整をして専門看護師が働きやすいように、役割開発に向け準備してきた。管理者の理解は、専門看護師が活動しやすいかどうか大きく影響する。

4) グループワークへの講師コメント

(1) 1グループ

電子カルテでのマークの活用について面白いと思った。みんなに専門看護師の記録を見てもらうことはとても大事だと思う。専門看護師がかかわっている時は、スタッフも気にして見ていることもある。専門看護師らしい表現、アセスメント、何をしたのかただらとではなく、正確に書けるとよい。記録の最後に自分が専門看護師の立場であることを残すようにして、記録を目立たせるようにする。記録を見ることで、こういう見方があるのかとスタッフにわかるし、専門看護師はこういう見方ができるとわかる。記録を見てもらうことの重要性は大きい。

(2) 2グループ

実践の積み重ね、専門看護師としてのアピール、情報誌など、大事だと思う。昔、勤務していた施設で、毎月情報誌を発行し、写真、トピックス、新しい知識を提供していた。師長へのアピールをするという点では、気づいた看護上の問題をさりげなく伝える。カンファレンスなどで、気づいた問題、対応や方策、考えていることをさりげなく、師長に伝えていくと専門看護師の立場や、専門看護師が見ているものが伝わる。

(3) 3グループ

専門看護師への管理者の理解は大事。最低限専門看護師の役割が何かを理解してもらうことは大事であり、看護協会の管理者研修の中で専門看護師の育て方について取り上げてほしいと伝えている。しかし、専門看護師も資格を得たらすぐに何かができるわけではないことも同時に伝える必要がある。病院で育てていくことも大事だと理解してほしい。若い専門看護師が自分だけで行動していくのは難しいし、チームへの参加のチャンスを与えつつ成長をみてもらう必要がある。今後、看護協会のHPで管理者が専門看護師をこう育てた、また、専門看護師はこのように成長したというようなことを、両方から示し公開していこうということになった。このようなどころから、管理者として専門看護師の育て方について気づいてもらえるとよいし、専門看護師も一緒に育っていくつもりでいてほしい。しかし、専門看護師として、育ててもらふことばかり期待していてもいけない。この点は、難しいところだが、どこの施設でも課題になっているところである。

2. 研修会実施後のアンケート結果と実施評価

アンケートは19名から回答が得られた。講義については「とても良かった」が13名、「良かった」が9名であった。グループ討議について15名より回答があり、「とても良かった」が9名、「良かった」が6名であった。

1) 研修会に対する意見・感想

研修会に対する意見・感想として、【他分野、他施設のCNSの活動がわかり参考になった】(5件)、【役割開発について、自分の立場でできること、すべきことがわかった】(4件)、【悩みを共有できてよかった、悩みが軽減した】(4件)、【CNS活動が看護の質向上につながるよう役割発揮したい】(1件)、【日々の実践を記録し、振り返りをしていきたい】(2件)、【自己の活動の振り返りができた】(2件)、【自分の体を知る専門家として患者と協働する大切さを感じた】(1件)、【対象者の自律・価値観を尊重することの重要性を再認識した】(1件)、【スタッフとの日頃のコミュニケーションが重要だと感じた】(1件)、【講師の講義を聞きたいと思い参加した】(1件)、【具体的なことを質問でき、よかった】(1件)であった。

これらの感想から、グループ討議を通して交流を深め、日頃感じている専門看護師としての悩みを共有する機会になったことが確認できた。研修会の意見・感想を表2に示した。

表2 研修会に対する意見・感想

分類	意見・感想
他分野、他施設のCNSの活動がわかり参考になった (5件)	他者のCNSの活動、悩みを知ることはとても参考になる。
	それぞれの立場でCNSが、どのような介入を行っているか、実体験として分かった。
	他分野のCNSの方々の取り組みやご意見を知ることができて良かった。
	様々な分野のCNSと話すことで、自分の今後の活動のヒントが得られた。
	グループワークは他の施設の方の活動や思いを知ることができ、参考になった。
役割開発について、自分の立場でできること、すべき	役割開発について考えることができた。 もっと早く知っていたら違っていたと思う。明日から役立てたい。

分類	意見・感想
ことがわかった (4件)	自身の立ち位置で何ができるか、何をしていくべきか、とても参考になった。
	役割開発の実践は、自分が置かれている立場から見出していけるものだと思う。現在の立ち位置で行うべき CNS としての役割に気づくことができた。
	何かできること、課題解決するための方法、再確認し、意欲になった。
悩みを共有できてよかった、悩みが軽減した (4件)	悩みが軽減した。
	現在の自身の立場、悩みなど共感することや参考にできることが、沢山盛り込まれており勉強になった。
	それぞれの立場での悩みについて話し合えたことが良かった。どの施設でも同じような悩みがあることがわかった。
	院内での活動のしづらさを感じている真只中だったので、同じような立場の方(悩みを共有できる方)と話ができて良かった。
CNS 活動が看護の質向上につながるよう役割発揮したい (1件)	看護の質のレベルアップに CNS の活動がいかに重要か、また患者・家族に最善の利益をもたらすように、今後も役割発揮していきたい。
日々の実践を記録し、振り返りをしていきたい (2件)	自信の看護実践に自信をなくしていた中で、日々の看護の記録を残していく中で振り返りを行っていきたい。
	日々の実践の意味づけができるように、記録に書きとめ、振り返る取り組みをしようと思った。
自己の活動の振り返りができた (2件)	様々な視点で自己を振り返ることができ、とても有意義だった。
	自分の活動を振り返り、明日からの行動につなげるものになる。
自分の体を知る専門家として患者と協働する大切さを感じた (1件)	患者を自身の体の状況を知る専門家として捉えるということが、今までの自分にはない考え方で、はっとするものがあった。協働し、取り組む大切さを感じた。
対象者の自律・価値観を尊重することの重要性を再認識した (1件)	対象者の自律や価値観を尊重することは、やはり慢性期の看護において重要であると再認識できた。
スタッフとの日頃のコミュニケーションが重要だと感じた (1件)	取り組みたいことを事前に根回しするというお話があり、“根回し”ができるよう、日頃からのスタッフとのコミュニケーション、関わりも重要と感じた。
講師の講義を聞きたいと思い参加した (1件)	学生のときに講義を受け、先生の実践活動を大変参考させていただいたことがあり、卒業してもう一度先生の講義を聴きたいと思い参加した。
具体的なことを質問でき、よかった (1件)	質問の時間があり、具体的なことをお聞きすることができるため良かった。

2) 研修会の運営について

また、研修会の運営に関しては、好評や継続に関する意見（3件）、今後の企画・運営への提案（2件）、参加者の活動について（1件）その他（1件）などがあつた。結果を表3に示す。

今後の企画・運営への提案では、CNSとしての研究データの取り方、取り組み方等、研究に関することへの検討や日時の設定に関する意見があつた。また、今後の活動について、「病院の管理者への働きかけができる何かを考えたい」などの意見があつた。

表3 運営・その他への意見

項目	要約
好評や継続に関する意見 (3件)	大学の先生方と他分野のCNSとともに学び合える場とはとても貴重な機会であり、このような場がある岐阜県内のCNSは恵まれていると思う。是非継続してほしいと思う。
	他者の活動を知ることは、とても参考になった。 グループ検討会、講義、ペアであることは、とても効果的だと思う。
	とても勉強になる講義だったので、もっと多くの方に聞いていただけると良かったと思った。
今後の企画・運営への提案 (2件)	CNSとしての研究データの取り方、取り組み方等、研究に関することももう少し検討できるとよかつた。
	良いと思うが日曜13時～16時は、参加人数が減ってしまうと思う。
参加者の活動について(1件)	病院の管理者たちへの働きかけができる何かを考えたい。
その他(1件)	机がチョークの粉で汚れていたのが気になった(複数の机)

3) 今後についての意見・要望

今後についての意見・要望では、研修内容について7件、研修開催時期について3件であつた。結果を表4に示す。

研修内容については、「CNSの実践報告」や「コンサルテーションについて」、「交流の機会」とすることなどの意見があつた。また「講義・グループワークともに得るものがあり、双方が盛り込まれると良い。教育、コンサルテーション、倫理などのテーマでディスカッションを行い、実践につなげる力をつけていきたい」との意見があつた。

研修開催時期については、「この時期でよい」(2)、学会への演題登録時期を避けて、「10月～12月まで」が良いという意見や、「土日が出席しやすい」などの意見があつた。

表4 今後についての意見・要望

項目	要約
研修内容について(7件)	CNSの実践報告があると参考になる。
	県内CNSの実際の活動を発表することで、自身の活動・役割の整理ができ、また他者のCNSの活動の実際もわかるので、ぜひやってほしい。 他県ではなく、岐阜県での活動を知りたい。
	実践につながる内容で、多くの学びが得られた。
	コンサルテーションについて。
	交流の機会。
	講義・グループワークともに得るものがあり、双方が盛り込まれると良い。教育、コンサルテーション、倫理などのテーマでディスカッションを行い、実践につなげる力をつけていきたい。
	良かった
開催時期について(3件)	この時期でよい(2)
	避けてほしいのは、1月～9月。 理由として研究の(演題)登録の開始から学会が特に6～9月に集中するため、10月～12月までがいい。
	9～10月頃 土日が出席しやすい

3. 県内で活動する専門看護師を対象とした事例検討会企画に向けた検討

2018年8月2日(18時～19時30分)に、本学において県内で活動する専門看護師を対象とした事例検討会企画会議を実施した。

参加者は、本事業担当の教員と、本学大学院専門看護師コースを修了し、県内施設で活躍中の3名の専門看護師(慢性疾患看護専門看護師1名、がん専門看護師1名、小児専門看護師1名)が企画委員として参加した。

検討内容は、専門看護師を対象とした事例検討会の企画について、どんな事例検討会にしていくとよいか、また具体的な検討会の実施に向けた準備や進め方について検討した。以下に検討内容の概要を示す。

1) どんな事例検討会にしていくとよいか

- ・医療的ケアの必要な障がいをもつ子どもの倫理的課題を、専門領域に関係なく様々な領域の専門看護師で検討した。専門領域により同じ事例であっても、考え方や意見の違いがあり、自身の考え方に偏りがあると気づくことがあった。

- ・がん看護の領域では、意思決定に関する倫理的課題がよく検討されるテーマであるが、自分の視点の偏りや思考の硬直を感じることもある。視野を広げられるように領域に関係なく議論できるとよい。

- ・専門看護師のスキルアップセミナーに参加した。あらかじめ提示された3事例を事前に選択し、事例検討を行った。午前中は講義(チームビルディングに関するテーマ)、午後から事例検討で、最初に事例説明があり、グループディスカッション、全体での検討内容共有、まとめであった。領域の違う専門看護師で検討し、違った視点でのアセスメントなど学びになった。

- ・専門看護師が施設の中で力を発揮し役割開発していけるかどうかは、施設の看護管理者が、専門看護師の役割を理解し活動を支援するかどうかにより大きな違いがある。看護管理者の専門看護師に対する理解が深まるように働きかけることも重要である。

2) 今年度の事例検討会の計画について

事例検討会実施に関する方向性として、領域を超えて話し合う機会とする、倫理的課題について考えられる事例で検討するなどの意見があがった。

当初、11月に実施できるように進める予定であったが、10月に研修会を実施したことや、現在、看護実践研究交流集会在看護実践研究学会として組織移行する予定であり、次年度以降は学術集会での交流セッションとして継続的に実施することも可能であることから、実施は次年度以降として検討することとなった。

V. 教員の自己点検評価

1. 看護実践現場・看護職に与えた影響

本年度の研修会については、参加者から概ね良い評価を得られており、専門看護師の今後の活動に活かすことができる研修会であったと評価する。また、グループ討議を通して交流が図れており、県内の専門看護師が分野を超えて交流することで、県内の看護の充実にもつながっていくことが期待される。

参加した専門看護師をはじめとする臨床現場の看護職からは、日頃の悩みの共有や他施設の看護職者との情報交換にも役立った、という意見が多かった。また、研修を通して日頃の実践を振り返り、講義やグループワークの内容を今後の活動に活かすなどの意見も確認できており、参加したそれぞれの看護師が自己の課題を解決することに役立つと考える。

2. 看護職の研修としての有用性

県内の専門看護師を対象とした研修会は今回が2回目である。専門看護師は、それぞれの専門分野の学修もさることながら、専門看護師の看護実践に共通した課題も抱えている。今回、「CNSの6つの役割発揮と看護の質改善のコツー組織とのWin-Winを目指して」をテーマに講義とグループワークを企画した。専門看護師がその能力を発揮してためには看護管理者の理解に理解を得て行くことは大きな課題であり、参加者から高評価を得ている。本学の修了生が県内の専門看護師の半数近くを占めていることもあり、本学が専門看護師の研修会を主催し、専門看護師の学習ニーズにこたえていくことは、今後とも重要なことである。

また、専門看護師の看護活動の充実には、講演を通して知識・技術を理解すると同時に、その知識・技術を発揮できる環境づくりが必要であることから、グループワークにより他施設の現状を知ることが、そのヒントとなるのではないかと考えられる。

3. 本事業を通して捉えた看護職の生涯学習のニーズ

研修会後の参加者へのアンケートによると、今後も研修会を継続して欲しいという意見が確認できている。内容については、コンサルテーションなどともに、県内の専門看護師の実践報告などの要望

もあることから、専門看護師が自らの実践を報告し、専門分野を超えて検討することも有効ではないかと考える。

また、参加者のグループワークでの検討内容や事後のアンケート調査結果から、専門看護師としての活動には、看護管理者の理解や協働体制が不可欠であり、その体制が施設により異なる現状も明らかになっている。このような現状を踏まえて、看護管理者に対して専門看護師の活動や生涯学習ニーズへの理解を図る必要がある。

4. 本学の研究・教育に与えた影響

今回の研修会の内容は、大学院担当の教員にとっては、カリキュラムの内容を吟味していくうえで大変意味のある内容となった。大学院の専門看護師コースにおいては、常に現代の看護の課題を把握し、必要な看護実践を考えてかなければならないので、今回のような実践現場に即した研修内容は、本学の教育研究にとっても有用である。

また、専門看護師がどのような環境で、どんな活動をしているかを知ることは、各施設の看護実践の現状だけでなく、岐阜県内の看護実践の発展の方向性や課題を確認することにもつながるため、本学の教育・研究に対する課題について示唆を与えるものであると考える。

VI. 今後の課題と発展の方向性

参加者アンケートから、今後もこのような研修会を継続して開催してほしい、という意見が多かった。本年度、今回企画委員（本学修了者の専門看護師3名）を交えた会議において、専門分野を超えた事例検討会の開催について検討を進めている。来年度は、本年度の検討を基盤に事例検討を中心にした企画を検討する方向で進めたいと思う。

また、次年度9月には本学で「看護実践研究会」が開催されるため、学会企画と連動して実施する可能性も検討していきたい。